

## 会 議 録

会議の名称	平成21年度 第1回豊中市立図書館評価検討委員会		
開催日時	平成21年(2009年)4月23日(木)9時30分～11時30分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・一部不可
事務局	生涯学習推進室 岡町図書館	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	村上泰子 上口佐知子 本荘泰司 小早川謙一 中井靖子	
	事務局	岡町図書館長 千里図書館長 野畑図書館長 庄内図書館長 蛭池図書館長 岡町図書館副主幹	
	その他		
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員の紹介について</li> <li>2 委員長の選任について</li> <li>3 豊中市立図書館評価について</li> <li>4 その他</li> </ol>		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 平成21年度（2009年度）第1回 図書館評価検討委員会

日 時：平成21年（2009年）4月23日（木） 9時30分～11時30分

場 所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委 員 村上 上口 本荘 小早川 中井

事務局 古川 藤沢 林 大原 北風 松井

### 開 会

資料確認

事務局 教育委員会生涯学習推進室岡町図書館長 古川よりあいさつ

委員の紹介

### 1 委員長の選任について

\*互選により選任された。

委員長 村上 泰子

委員長代行者 上口 佐知子

### 2 豊中市立図書館評価について

\*配布資料に基づき事務局から説明を行なった。

#### （1）「資料1 平成21年度豊中市立図書館の外部評価の実施について」

「これからの図書館の運営のあり方について」

「豊中市立図書館における評価システムのあり方について」

\*これらの資料に基づき事務局から説明を行なった。

#### ●委員長

ただ今の報告について、何か質問はあるか。

#### ●委員

図書館で評価を行なうことは、組織の存在意義、目標、目的を明確にし、PDCA サイクルに取り組んでいくことだと思うが、他の図書館との比較をどのように考えているのか。企業の場合、他社と比較し、他社にすぐれたものがあれば取り入れていくといったことが行なわれているが、他者との比較は必要ではないか。

#### ●事務局

昨年6月に図書館法が改正され、図書館において評価を実施することは努力義務として規定されている。図書館年鑑等では貸出や蔵書等の統計情報に関する各図書館のデータが

限られており、当市の状況と他の自治体と比較することが難しい部分がある。しかし、他市と比較、参考になる部分は取り入れながら、進めて行きたい。

#### ●委員長

まだ先進事例が少ない中での取り組みになると思う。また、今は、図書館における外部評価の重要性がクローズアップされてきている。その中で、一つの提言として、まとめていければと思う。

### (2)「資料3 平成20年度図書館利用者アンケート調査結果報告書」

#### 村上委員長のご協力により、クロス集計、自由意見のまとめ

\*これらの資料に基づき事務局から説明を行なった。

\*村上委員長からクロス集計、自由意見のまとめについて、ご説明をいただいた。  
集計結果より

- ・自由意見では、同じ事柄に対する反対意見も掲載されている場合がある。
- ・帯グラフの幅は、人数の多さを表しているものではなく、その意見の回答数に対する割合を表している。

#### ●委員

資料3の4頁の上の表で会社員の割合が20%を超えている。アンケート結果のサービスにビジネス支援サービスがあるが、このデータを結びつけて分析しているのか。またビジネス支援サービスはどのようなことを行っているのか。

#### ●事務局

ビジネス支援サービスでは蔵書の充実はこれまでも行なってきた。他市の例としても企業群の近くにある図書館は企業判例等の蔵書の充実、インターネットが利用できる等が一般化されつつある。豊中市の図書館では、千里図書館のリニューアルの際にインターネットや商業データベース等の整備を行い、ビジネス支援サービスを充実させた。豊中市では、地域特性を活かし、起業支援や資格取得の支援などの方向に取り組んで生きたいと思う。ただし、認知度が低いので、今後、啓発・PRを行っていく必要がある。

#### ●委員長

アンケート調査の実施に用語説明を付けて実施した。この用語説明の中でビジネス支援サービスについても説明しており、アンケート調査の実施を通じて、ビジネス支援サービスのPRにもなった。また、アンケート調査結果を分析していて、会社員の方がすべてビジネス支援サービスを利用しているわけではないと思う。

#### ●事務局

図書館を利用する会社員の利用者がすべて仕事と結び付けて公共図書館を捉えているようではないように分析している。

(3)「資料2 平成19年度図書館評価システム自己点検結果報告書」

「資料4 豊中市立図書館評価システムリーディング項目一覧」

\*これらの資料に基づき事務局から説明を行なった。

●委員長

図書館で行なわれている事業等を隅から隅まで洗い出し、250を超える項目となった。ただし、評価疲れとならないように、持続可能な取組となるように、資料4のリーディング項目(案)を考えられた。

委員の皆さんは、資料4のリーディング項目の設定が適切であるかどうかについて、ご意見をいただきたい。リーディング項目の確定をこの委員会の共通認識として、理解してよいか。

異議なし

●委員長

資料2の見方について、質問がある。

小項目と中項目に対して、評価値を出されているが、この数値はどのように算出されたのか。

●事務局

全体的にはきびしく評価を行なった。中項目について、少し数値の付け方を工夫している。基本的には小項目の評価点を平均化して中項目に反映しているが、リーディング項目にピックアップしているような重点項目がある場合にはその項目を中心に判断している場合もある。

●委員長

リーディング項目となるような重点項目を中心に評価点をつけている。

●委員

市全体としても評価システムがあるが、評価のフィードバックがなかなかできていない。このような取組は重要である。質問があるが、資料2の1頁にある評価担当者会の構成はどうか。また、相対評価と絶対評価を強調されていたがその評価の違いはどのように表れているのか。

●事務局

評価担当者会は、1館で行うのではなく9館すべてで関わる形で行なっている。また、それぞれの事業についても横断的に担当している人材を担当者としている。相対評価と絶対評価であるが、資料2の2頁の相対評価の参考指標をご覧いただきたいが、豊中市の図書館は、全国の平均と比較すると上位に含まれるサービスを提供している。た

だし、豊中市として課題となっていることは課題として取り組んでいくことが必要であるため、全国平均値を参考・加味にしながらの評価を実施することとした。

●委員

全体的な印象ではあるが、評価疲れをされていないか。図書館は、市民サービスのために評価を行なうのであって、評価のための評価であってはならないと思う。

一般的には2：8の法則等もあり、もう少し評価対象の項目数を絞り込んでスピード感をもって取り組んでいくことが大切である。

●委員

アンケート結果や評価結果等が子どもにもわかりやすい形で公表・反映されているかを知りたい。

●事務局

ホームページを活用し、アンケート調査結果等は公表している。子どもに分かりやすくというところまではできていない。また、図書館の様々な取組やお知らせ等に関する市民への情報発信は、今後とも大切に考えていきたい。

●委員

評価をよくここまでまとめてこられているが、スピード感は大事。今の見直しが明日、反映される等。ある程度の評価をやり方が見えてきたら、スピード感を持って進めて欲しい。

●委員長

資料4のリーディング項目案の見方も含めて、ご意見をいただきたい。  
典拠記号4の“その他”とは何が入るのか。

●事務局

統計書として一般的に公開していなかった資料を含めて、“その他”としている。

●委員

前回の図書館協議会でも意見が出されていたが、“協働事業”をどのように定義し、分けているのか。

●事務局

前回の図書館協議会でもご意見はいただいている。多角的に各中項目の小項目に市民との協働事業が取り上げられている。どうやって整理するかは、この評価検討委員会の中で考えていきたい。

●委員長

市民との協働事業以外にも重複する項目があると思うので、この委員会の中で検討の余地があると思う。

●委員

目標値についての意見がある。

豊中市の人口が減少していくと予想されている中で、目標値をどう考えていくのか。地域によってばらつきもあるが、庄内地区と千里地区では高齢者の地域の占める割合が 25% になると予想される。そのような地域の中で今後、どのようなサービスを行なっていくかを考える必要があると思う。資料4のリーディング項目の中に、図書館数、配置の適切さとあるが、教育行政全体の中で今後、どう取り組んでいくかが重要である。

●事務局

該当するリーディング項目をみると、それぞれの館を利用している利用者の年齢構成まではわからない。また、冒頭にも説明を行なったが当初図書館は12館構想も持っている中で現在の9館までとなっており、近くに図書館がある所とない所では地域格差がある。図書館の資源の再配分を行う必要があると考えている。現在、教育委員会では、南部地域のあり方について、内部で議論を進めてきている。次回以降、この協議でのデータも提出したい。

●委員

経営においてコスト（経費）は重要である。公的サービスにおいて、どれぐらいのコストがかかっているかを知ることが、一般的な要求である。（例えば、一冊の貸出にかかるコスト等）コストがどれぐらいかかっているかが見えないので、コストの視点を上手く組み入れるのは大切である。長期の取組を考える上で、はずせない要素である。

●事務局

事業によっては、コストがかかってもやらないといけないものもある。（障害者サービス等）しかし、最適コストをめざしていかなければならないので、市民が納得していただけるよう、情報公開をしていきたいと思う。

●委員長

コストについては、一部、冊子「図書館活動」にも掲載されている。そちらもご覧いただきたい。コストに対する目配りは大事であると思う。次回以降、評価の実施に入っていくが質問事項等があれば、事務局までご連絡・お問合せをいただきたい。

短期間での評価の実施となるので、電子メールや FAX 等を活用させていただき、随時、情報共有を図っていききたいと思う。

それでは委員のみなさま、次回以降の評価の実施について、よろしく願います。

それでは、事務局から次回以降の委員会の開催日程の説明をお願いする。

\*資料1に基づき、事務局から日程の説明

## 閉 会

### ●委員長

それでは以上で第1回評価検討委員会を閉会する。